

よろい とうせいぐそく つく 鎧 (当世具足) を作ってみよう

鎧は身を守る防具のひとつで、戦いのかたちが変わるにつれ、その姿も変わってきました。その中でもみなさんになじみのある「当世具足」をペーパークラフトにしましたので、各部の名称を覚えながら、作ってみましょう！



■ はじめに



「当世具足」ってどういう意味？

「当世」は現代、「具足」はあらゆるものが備わっていること、つまり「当世具足」は、身を守るための機能が十分に備わった現代風の鎧という意味だよ。ここでいう“現代”とは戦国時代のことで、さまざまな戦いを経て、動きやすく守りが堅い鎧に進化していったんだ。



ヤマさん

■ 鎧 (当世具足) を作ってみよう

● 用意するもの

はさみ・のり・カッター・割りばし (1膳)・紙コップ (1つ)・
薄い布またはティッシュ・輪ゴム

● 作り方

※刃物をあつかうときは、気をつけましょう！

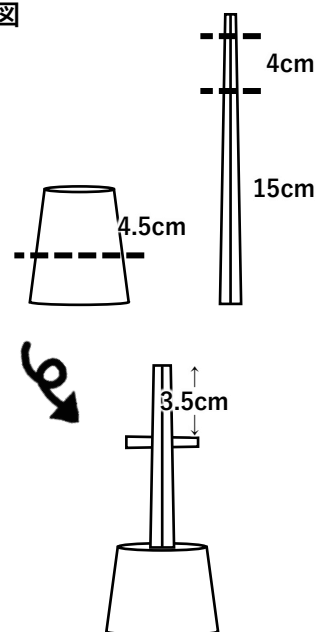
1. 鎧立てを作る

- (ア) 紙コップを底から 4.5cm の高さに切り、割りばしを 15cm と 4cm に切り分けます。
- (イ) 紙コップの底に穴をあけて 15cm の割りばしを差し込み、4cm の割りばしを右図のように組み合わせ、のりなどで固定します。(まっすぐ立っていないと、鎧が傾いてしまうので、慎重に！)



グラグラするときは、割りばしに重り (紙粘土など) をつけると安定するよ

図



2. 型紙を切り抜き、組み合わせる

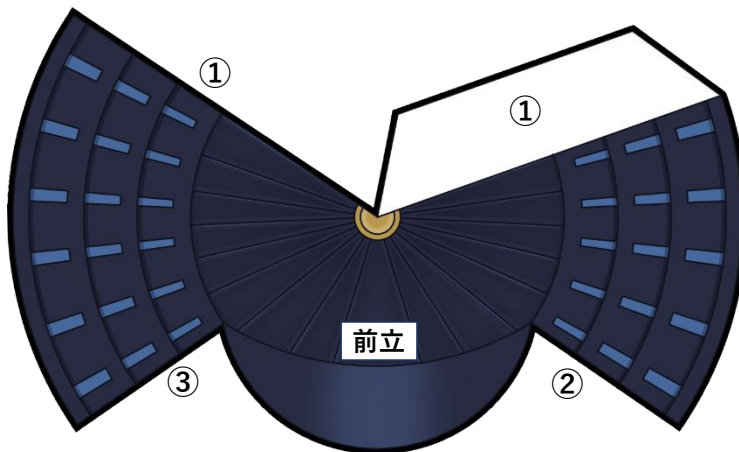
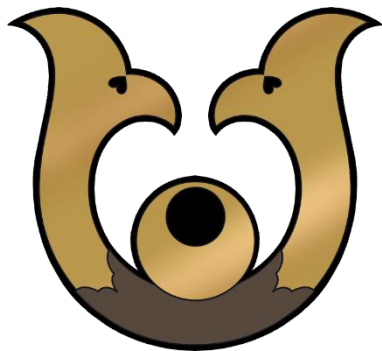
- (ア) 型紙を、太線 (——) にそって切ります。
- (イ) 山折り線 (-----)・谷折り線 (- - -) にそって紙を折ります。
- (ウ) 各パーツをのりづけします。

写真

各パーツの完成形



前立 まえだて



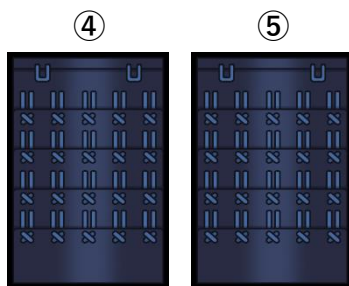
兜 かぶと 鞆 しころ

あたま ぶぶん
頭にかぶる部分を
「兜」、兜の後ろに
垂らして首を守る
部分を「鞆」とい
います。

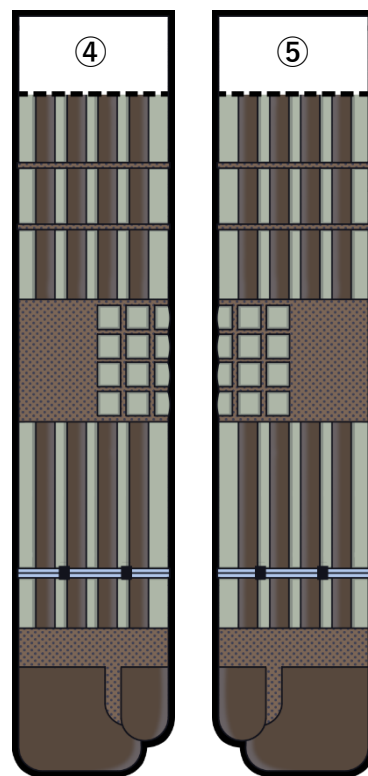
吹返し ふきかえし



袖 そで



籠手 こて

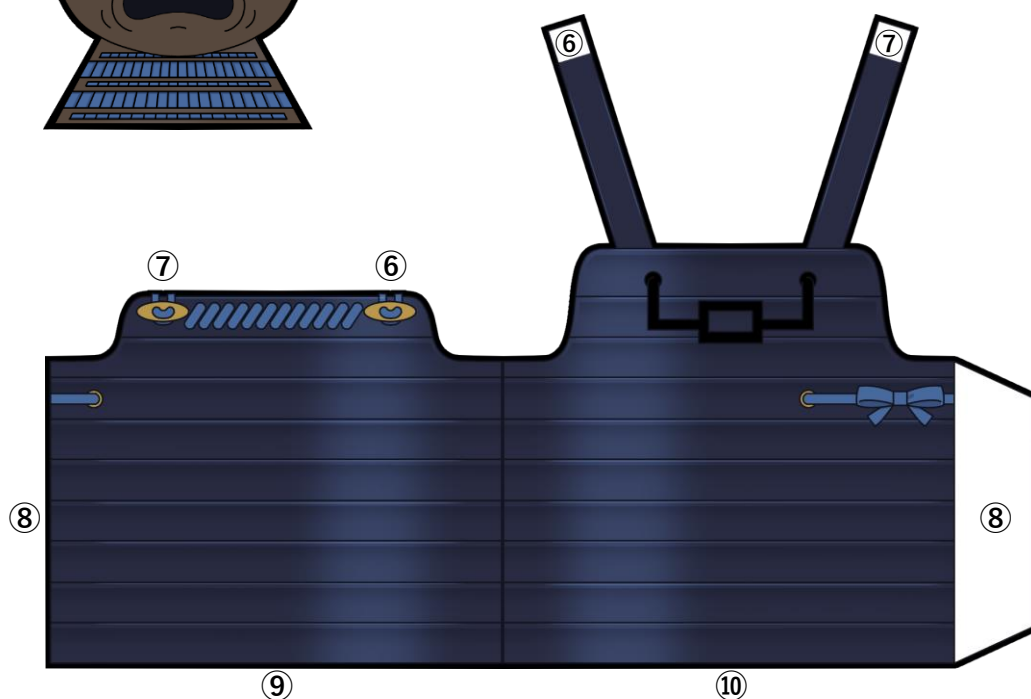


面頬 めんぽお



▼鼻の部分
を軽く山折
りします。

鎧の札（板状の部分）を糸や革で
じょうげ 上下にとじ付けることを「威」と
いい、糸などをすき間なくとじ付け
たものを「毛引威」、間隔を置いて
まばらにとじ付けたものを「素懸
威」といいます。



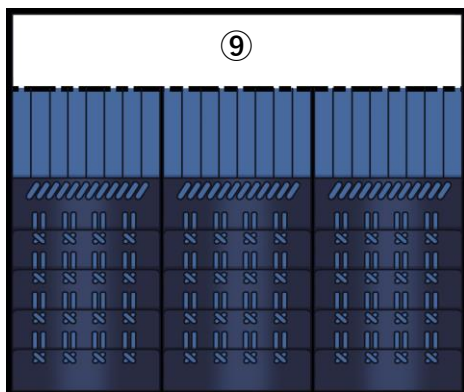
胴 どう

鎧の札を びょう などでカラク
リ留めで作った胴は、
ひょうめん おけ そくめん に
表面が桶の側面に似てい
ることから「桶側胴」と呼
ばれます。中でもこの胴
は、よこむ 横向きに札をつなぎ合
わせていることから「横矧
どう 胴」といいます。

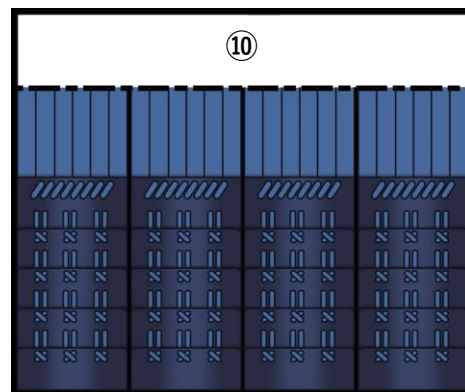
草摺 くさずり

あし
足を動きやすくするため、
ぶんかつ
分割して作られています。

草摺と胴をつなぐひもは
ゆるぎのいと
「揺糸」といいます。

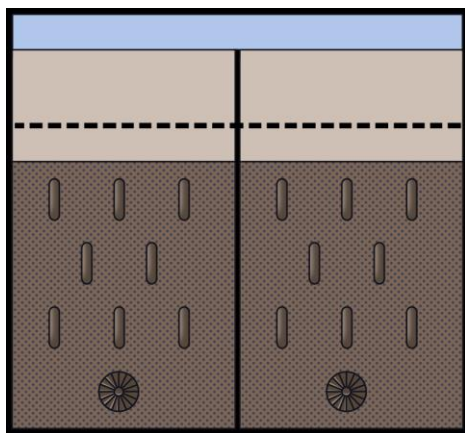


(前)

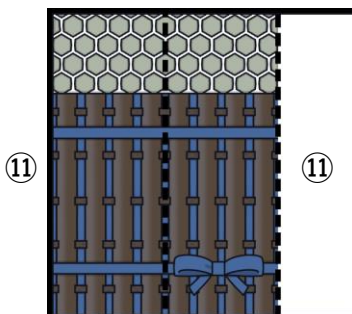


(後)

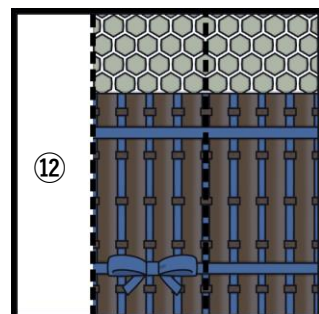
佩楯 はいだて



臍当 すねあて



⑪



⑫

3. 鎧立てに飾る

(ア) 割りばしの先端に薄い布かティッシュを巻き、輪ゴムで固定します。

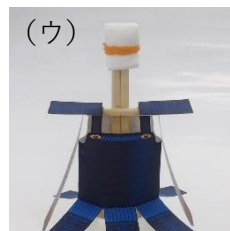
(イ) 鎧立てに胴と草摺りを合わせたものをセットします。

(ウ) 胴の肩の部分に籠手と袖を合わせたものを貼ります。

(エ) 草摺りの下に佩楯を置き、その前に臍当を置きます（ずれる場合はのりづけしましょう）。

(オ) 面頬の白い部分を交差させのりづけし、(ア) の上に固定します。

(カ) 兜をかぶせたらできあがりです！（ずれる場合はのりづけしましょう）



(ウ)



写真

完成形



いろんな武将の前立を観察してみよう。オリジナルの前立を作って、鎧をアレンジしてみるのもおもしろいよ！

郷土資料館梅津会館 常陸太田市西二町 2186 TEL : 0294-72-3201

できあがった作品やつくっている様子を「#我が家のおうちミュージアム」「#常陸太田市」をつけて SNS にアップしてみてください！みなさんの投稿お待ちしております。